第６学年　国語科学習指導案

６　年　　２０名
指導者　　赤　堀　真　之

１　単元名　　「平和」について自分の考えを発信しよう

２　指導にあたって

（１）単元設定の理由

本学級は，進んで本に親しむ学習者が多い。また，学習全般において，指示されたことや与えられた課題に対して真摯に取り組むことができる。学年当初に比べ，自分の考えや思ったことを書いたり発言したりする姿が徐々に増えてきている。さらに，一人一人が考えを出し合って友達の意見を参考にしながら，学習を深め合おうとする態度を育てていきたい。

まず，単元「ガイドブックをつくろう」で修学旅行先の自分の選んだ場所について，調べたり印象に残ったりしたことを伝える活動をした。この学習で自分の伝えたいことが伝わるように組み立てを考えながら文章にまとめるということを意識できるようになってきた。また，単元「学級討論会をしよう」の学習で，討論の流れに沿って相手の意図を聞き取ったり，自分の主張を明確に話したり，調べたことをもとに自分の意見を主張し合ったりする学習をしてきた。身近な話題を題材にすることで，立場をはっきりさせて話し合おうとする態度は育ってきている。しかし，自分の主張を相手に伝えるときに，組み立ての工夫を考える力がまだ十分でない学習者は，何をどう話せばよいかに自信がもてず，積極的に発言できない場合がある。

教材文『平和のとりでを築く』は，一見史実に重点が置かれている文章のように思われるが，文末表現の中に考えが盛り込まれていることが多く，随所に筆者の工夫が見られる。また，原爆ドーム保存について対立する意見が保存論に固まっていく過程を賛成と反対に分かれて話し合うことで，人々の思いを読み取ることにより，論理の展開の工夫について学習することができ，自分の考えを深めて読むことに適した教材である。史実と筆者の考えを読み深めることで，いかに多くの人々が平和を希求しているかが分かり，平和の意義の理解につながる教材でもある。『平和のとりでを築く』を学習しながら，筆者の訴えたいことについて理解し，それをきっかけに，小学校生活の６年間で学んだことや体験したことから「平和な世界」に対する自分の考えをしっかりともち，友達・家族・社会へと発信できるようにする。そのために必要な情報を集めて取捨選択させ，効果的な表現方法を工夫することで，情報活用の質を高めたい。このようにこれまでの国語学習において培ってきた知識や能力を総合的に発揮するという学習活動として価値があるため，本単元を設定した。

本時は，原爆ドーム永久保存のための広島の人々の議論の様子を題材に，その当時の事実や人々の考えや判断を学習者各自が根拠をもとにしながら書き，友達と話し合う中で，広島の人々の平和を願う思いや考えを想像し，歴史的な見方や地球規模的な見方の大切さを身に付けていくことを目標としている。

（２）ことばを大切にし，「読むこと」を通して，自分の考えを深め表現できる力を育てる手だて

○　補助教材（読みもの資料，ビデオ，インターネットサイト）を活用し，原爆や戦争のころの様子についてイメージを深めることができるようにする。

○　読みもの資料やインターネットサイトの情報をどのように取捨選択するかが難しい場合には，「平和」に関するイメージ図をもたせ，書く内容を整理できるようにする。

○　文末表現，キーワード，指示語に注意して読んでいくことを意識できるようにする。

○　グループでの意見交換や学級全体での話し合いによって，友達の意見を生かし，自分との共通点や相違点を比べ，自分の考えを深めることができるようにする。

3　単元の目標

（1）学習者の活動目標

○　「平和」について自分の考えを発信しよう

（2）指導目標

○　経験したことや調べたことについて，目的や意図に応じて，効果的に話したり書いたりすることができるようにする。

○　筆者の感想や意見を生かして自分の考えを深めることができるようにする。

○　事実と感想や意見の対応に留意しながら話すことができるようにする。

○　文や文章にはいろいろな構成があることを理解し，目的や意図に応じて効果的なものを選び，文章構成を工夫することができるようにする。

4　評価について

	評価規準	「十分満足できる」状況 「おおむね満足できる」状況にするための手だて	評価の資料
関心・意欲・態度	筆者の考えを受けて自分なりの考えをもち，目的や意図に応じて関心をもって読んだり，話し合ったり，書いたりしようとしている。	・「十分満足できる」状況 目的や意図に応じて,資料を集め自ら進んで読んだり，話し合ったり，書いたりしている。 ・「おおむね満足できる」状況にするための手だて 戦争や平和に関して，ニュースや新聞記事などを紹介する。	発言 資料収集 ノート
読むこと	事実と筆者の感想や意見をとらえ，自分の立場からそれをどうとらえるか，考えをもちながら読んでいる。 （読むことエ）	・「十分満足できる」状況 事実と筆者の感想や意見を自分の立場をはっきりさせながら読んでいる。 ・「おおむね満足できる」状況にするための手だて 文末表現や文中の表現の変化を意識しながら，筆者の伝えたいことを考えるように助言する。	ﾜｰｸｼｰﾄ 資料 観察
話すこと 聞くこと	事実と感想や意見の対応に留意しながら話そうとしている。 （話すこと・聞くことア） 自分の立場や意図をはっきりさせながら，計画的に話し合っている。 （話すこと・聞くことエ）	・「十分満足できる」状況 事実と感想や意見の対応に留意して，聞く人に分かりやすく話している。 ・「おおむね満足できる」状況にするための手だて 自分の伝えることを効果的に聞く人に分かってもらえるように，発表の方法を例示する。	発言 ノート 観察 ﾜｰｸｼｰﾄ
書くこと	事象と感想や意見などを区別するとともに，目的や意図に応じて簡単に書いたり，詳しく書いたりしている。 （書くことエ）	・「十分満足できる」状況 事象と感想や意見などを区別し，目的や意図に応じて効果的な資料を選び，文章構成を工夫して書いている。 ・「おおむね満足できる」状況にするための手だて 自分の感じたこと，考えたことを明確にできるよう根拠となる文や資料を挙げさせる。	ノート ﾜｰｸｼｰﾄ

５　学習計画　（全１７時間）

身に付けさせたい力	学習活動と指導（★）	学習者の意識の流れ
［読む］ 語句の使い方，文末の表現を手がかりに筆者の主張や表現の工夫をとらえる。 ［書く］ 自分の考えが明確になるように，事実と感想や意見などを区別して書く。	（事前）社会科学習や読書の時間等の中で，平和への関心を高める。 １　原爆ドームがたどった足跡を年表にまとめ，話し合うことを通して，単元の課題をつかむ。　（２時間） ★題名読みや年表作りを通して，単元の課題をつかめるようにする。	人々が平和のために大切なことを何かしたのかな。 とりでだから，人々が何かがんじょうなものを作ったんだろう。 ・原爆ドームは広島の人に親しまれていた。 ・ドームの保存の時や，世界遺産指定の時にみんな平和について話し合ったのだろうな。
［読む］ 多様な友達の意見を生かし,自分との共通点や相違点を読み分けるなどして自分の考えを深める。 ［読む］ 筆者の感想や意見を生かして自分の考えを深める。	２　原爆ドームの永久保存や世界遺産指定の時の広島の人々や世界の人々の議論の様子を話し合う。（５時間） ①原爆ドーム保存運動について ②原爆ドーム世界遺産登録運動について ★「この文章で，筆者は何を伝えたいか。」という共通の課題をもたせる。 ★立場の違う「平和」についての考えを話し合わせる。	原爆ドーム永久保存，世界遺産指定の時，人々は，何を考え判断していったのだろう。 原爆ドームは，あの時の苦しい思いがよみがえってくる。壊してほしい。 原爆ドームは残すことに賛成だ。自分の悲しみや苦しみを後の時代の人に伝えないといけない。 原爆ドームを残すことで，戦争の悲惨さや悲しさをみんなが知って，私たちが，これから平和を大切にしていかないといけない。
［読む］ 目的や意図に応じて，必要な資料を探したり，選んだりする。 ［書く］ 伝えるべきことを整理し，工夫してメモなどを書く。 ［書く］ 目的や意図に応じて簡単に書いたり，詳しく書いたりする。 ［話す］ 聞き手の反応をとらえながら話す。	３　「平和のとりでを築く」ことについての筆者の考えを読み取り，自分の考えをもつ。（２時間　本時 2/2） ★今までの話し合いをもとに，自分の問題として考えるようにさせる。 ４　自分の考える「平和な世界」について何を誰に，どのような方法で伝えるのかを考え，資料を集めてまとめる。　（６時間） ★多様な資料を用意しておく。 ★具体的な作業の手順や調べる項目を書いた手引きを用意する。 ★発表の注意点を確認する。 ５　まとめた自分の考えを発信し，学習のまとめをする。　（２時間） ★友達の意見を聞いて，自分の考えに取り入れるようにする。	「平和な世界」ってどんなことだろう。 戦争の怖さを調べて伝えたいな。 身近なことで命に関わる怖いことを調べて伝えよう。 今も戦争や紛争をしている国や地域があるから，それを伝えよう。 戦争を経験した人の話を聞こう。 戦争や平和に関する資料を集めよう。 インターネットで資料を集めよう。 「平和な世界」についてまとめた自分の考えを学習発表会で地域のみんなに伝えよう。

６　本時の学習

（１）目標

①　学習者の活動目標

筆者の伝えたいことに対する自分の考えをまとめよう。

②　指導目標

友達と自分の考えの共通点や相違点をもとに，読み直し，筆者の伝えたいことに対する自分の考えを深めることができるようにする。

（２）展開

学習活動	指導上の留意点	具体の評価規準
１　前時までにまとめた筆者の伝えたいことを発表し合う。	・自分の考えとその根拠（文章中の言葉）とを合わせて発表させる。	
「筆者の伝えたいことについての自分の考え」をまとめよう。		
２　グループに分かれ，筆者の伝えたいことに対する自分の考えについて，読みの視点を挙げながら話し合う。	・筆者の伝えたいことを一つに集約する話し合いではなく，いろいろな考えが出るようにする。	友達との意見交換を通して，自分との共通点や相違点に気づき，読み直して筆者の伝えたいことに対する自分の考えをまとめている。
３　話し合ったことをもとに，もう一度文章を読み直し，自分の考えを確かめる。	・板書を見ながら，本時の話し合いを振り返らせる。 ・話し合いをもとに，筆者の伝えたいことについて，自分の考えを根拠となった文章を確認しながらまとめ直させる。	
４　これまでの学習を振り返り，筆者の伝えたいことに対する自分の考えを書き，伝え合う。	・これまで書いてきた「筆者の伝えたいことについての自分の考え」を見ながら，自分の考えや読みが深まってきたことを感じられるようにする。 ・書きまとめた自分の考えを，友達と交流する場面を設定する。	

（３）評価

評価規準 「十分満足できる」状況	「おおむね満足できる」状況にするための手だて	評価の資料
友達の考えとの共通点や相違点に気付き，もう一度読み直して，筆者の伝えたいことに対する自分の考えを深め，まとめている。	・筆者の伝えたいことを確認したり，友達の考えを参考にしたりして，書くよう助言する。 ・文中の言葉や文末表現を手がかりにさせる。	・ワークシート ・ノート ・発言